Education first !!

久留米大学医学部
医学教育研究センター
Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター　ニュースレター　第１６号　2016 年 10月発行

Moodleへのファイル投稿

ここ最近、学生さんのレポート提出をE-Learning（Moodle)システムで行う事が多くなりました。教員、学生双方が自宅からも作業できる利点がある一方で、iPADなど一部のタブレット端末でファイルのアップロードが「難しい」や「できない」という問題が生じています。iPADなどはOSの仕様上ファイルという概念がないため、まず、提出の際にファイルの選択ができません。Pagesなどで作成した書類をファイルとしてアップロードする際には、一旦WORD形式のファイルとして書類を保存する中継作業（Documentsなどのアプリを経由すること）が必要になります。また、ファイル名に日本語を含んでいる場合、正常にアップロードできないことがあります。アップロードが正常に行えない場合は、ファイル名を半角英数のみにしてください。

医学教育研究センターは教育一号館の６階にあります（旧医学教育学）。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

医学教育研究センターについて知ろう！（その１４）

Q: 教育センターのスタッフには朝のルーティンがあるそうですか？

A: 毎朝、同じ動作で「パスワードを忘れました」という100～200通のメールを消しています。

Q: それで何かを得たそうですが何ですか？

A: 瞬間的に内容を見切る速読と削除連打の特殊能力を獲得しました。

ストックホルムの夜景　- CC0 Pixabay より (http://pixabay.com) -

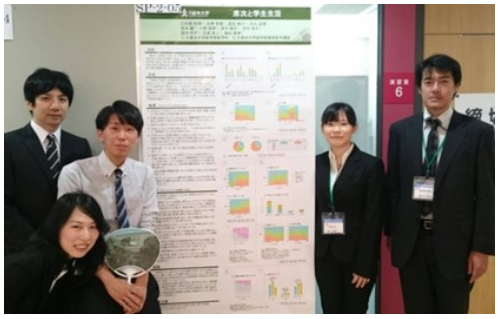
今号の特集

- 今月の学生の声（１）
- 今月の学生の声（２）
- 今月の医学時事

今月の学生の声（１）

医学教育学会に参加して

医学科５年　佐柳　和博



大阪医科大学で行われた第48回日本教育医学大会の学生セッションでポスター発表をさせていただきました。

今回発表させていただいた「学生生活と席次」は昨年度社会医学実習で発表したものをベースにしております。自分達でアンケートをとることから始めたこの調査は、私たちにとって非常に思い入れがあります。

アンケート作成、学会へ提出する抄録、発表用のポスター作成に至るまでのすべての過程において環境医学講座の森松先生、医学教育センターの先生方にアドバイスをいただき発表へと導いていただきました。こうした先生方の温かいご指導、そして何よりも学会での発表という大変貴重な機会を与えていただきましたことに、この場をお借りし深く感謝申し上げます。

5分間という限られた時間をどう使うか、発表を聴いてくださる方の心を掴むにはどう伝えたら良いかなど、アドバイスを頂き発表に活かすことができました。実際に発表している最中は集まってくださった皆様の真剣な雰囲気に圧倒されながらも、大阪まで駆けつけてくださった環境医学講座や医学教育センターの先生方の応援の眼差しに勇気をいただきながら、少しでも皆様にメッセージが届くようにと声を張って発表をいたしました。

発表後の質疑応答の際には、いくつかのご質問をいただきました。短い時間では説明しきれなかった点に関してのご指摘が主であり、皆様がいかに発表内容をしっかりと聞いてくださっていたかを実感するものとなりました。

表彰式では優秀演題賞受賞者として名前を呼んでいただきました。初めての学会発表でこのような賞を頂き身に余る光栄でした。これも全て社会医学実習で私たちの班を担当してくださった環境医学講座の森松先生とこの機会を与えてくださった医学教育センターの先生方の熱意とご指導によるものであります。

発表後もしばらくポスターを展示していたのですが、ポスターの写真を撮影したり、内容について質問して下さったりする方もいらっしゃり、大変嬉しく思いました。この様な他大学の先生方や医学生との交流、意見交換を通して新たな視点を発見し刺激を受けたことはここでしか得ることのできなかった貴重な経験であり充実したものとなりました。

今回の発表経験を活かし、これからも精進していきます。

本当にありがとうございました。

今月の医学時事はノーベル賞です。

医学生理学賞に大隅さん、物理学賞に３氏、化学賞に３氏　ノーベル賞、３賞決まりました。大隅さんの授賞理由は、「オートファジー(自食作用)の仕組みの発見」です。

詳しくは、巻内記事にて。

ノーベル財団（公式WEB）

http://www.nobelprize.org/nobel_organizations/nobelfoundation/index.html

医学教育研究センターのニュースレターに記事を投稿したいと言う方は、是非ご連絡をください。教員、学生問いません。教育に関する事、学校生活に関すること、ボランティア活動に関する事、大学に対する要望など、受け付けております。

医学教育研究センター

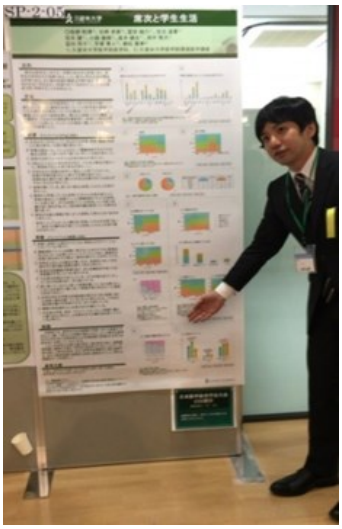
今月の学生の声（２）

第48回日本医学教育学会大会に参加して

医学科５年　冨安　柚乃・住元　遥香

今回学会に参加できるきっかけとなったのは、4年次に行われた社会医学実習でした。実習で「席次と学生生活」と題して発表しようと班員10人で決め、アンケートをとることから始めました。アンケート内容を考える中で、何回も柏木先生をはじめとする医学教育研究センターの先生方にアドバイスをお伺いしました。このアンケート内容及び解析結果に先生方が非常に興味を持ってくださり、今回の学会発表に導いてくださいました。

いざ学会に行ってみると、学生セッションだけでも多くの参加があり、キャリアプランに関する調査、地域医療について、臨床実習に関するものなどポスターがずらりと並んでいました。学生でここまで本格的なポスターを作成し、なおかつ堂々と発表できるものかと圧倒され、異世界に飛び込んだような感覚にまでなりました。



我々の「席次と学生生活」の発表では、聴衆の方々は深く頷いたり、時には笑いがこぼれたりして、会場の空気が一体化しているように感じました。質疑応答では多くのご質問を頂戴し、活発な議論が交わされました。光栄なことに「優秀演題賞」に選んでいただけました(35組中7組が選出)。

今回の学生セッションに参加して発表を聞いたり、他大学の方とお話しをしたりして、全国の医学部には普段の勉強以外にも自分が興味を持った内容に関して探求心をもって邁進している人が多くいるということを痛感しました。私は今5年生でCCL真っ最中ですが、実習のことだけで頭がいっぱいになっている自分をとても恥じました。今回学会に参加したことで自分の学生生活に対する考えや思いが変わってきたように思います。学校外に飛び出して普段と違う体験をするのはとても大事な経験となりました。

末筆ながら今回学会で発表する機会を与えてくださりご指導をして頂いた柏木先生をはじめ医学教育研究センターの先生方、社会医学実習の担当教官であり私達の発表を見守ってくださった環境医学講座の森松先生、発表に至るまでお力添えをしてくださった皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

今月の医学時事

ノーベル生理学医学賞に大隅良典氏

スウェーデンのカロリンスカ医科大学は、今年のノーベル生理学医学賞を大隅良典氏(71)に贈ると発表した。授賞理由は、「オートファジー(自食作用)の仕組みの発見」。細胞が自分自身を分解して栄養源としてリサイクルし新陳代謝する仕組みを明らかにした。

大隅さんは単細胞微生物である酵母で老廃物をため込む「液胞」という器官に注目し、1988年に世界で初めてオートファジーを光学顕微鏡で観察した。酵母を飢餓状態にすると細胞内の蛋白質が分解されて液胞に次々に運ばれている現象を電子顕微鏡でも観察した。

大隅さんはオートファジーに欠かせない遺伝子も次々と発見した。オートファジー研究は世界中に広がり、哺乳類・昆虫・植物など生物に共通する生命現象であることがわかった。パーキンソン病やアルツハイマー病は神経細胞内に異常蛋白質が蓄積することが病気の一因と考えられており、オートファジーが関係しているという報告もある。がんなど様々な病気の解明や治療法の開発にも貢献すると期待されている。

2016年10月3日　朝日新聞から抜粋

朝日新聞 DIGITAL

http://www.asahi.com/special/nobel/

http://www.asahi.com/articles/DA3S12594200.html

MLBサイエンス
＜オートファジーについて＞

http://ruo.mbl.co.jp/bio/product/autophagy/autophagy.html

＊日本人のノーベル生理学医学賞

利根川進　「多様な抗体を生成する遺伝的原理の解明」(1987年)
山中伸弥　「多細胞に分化する能力を持つiPS細胞の作製」(2012年)
大村　智　「線虫による感染症に対する治療法の開発」(2015年)
大隅良典　「オートファジー(自食作用)の仕組みの解明」(2016年)

＊幻のノーベル生理学医学賞

北里柴三郎　破傷風菌の培養(1889年)と血清療法(1890年) [コッホ研究所]
1901年(第1回)の受賞は共同研究者ベーリングの「ジフテリアの血清療法」
山際勝三郎　ウサギの耳にタールを塗擦して人工発癌(1915年) [助手は市川厚一]
1926年の受賞はフィビゲルの「線虫によるマウス胃癌」(三大過誤の１つ)
鈴木梅太郎　米糠から脚気に効くオリザニン(ビタミンB1)を抽出(1910年)
1929年の受賞はエイクマン＆ホプキンスの「抗神経炎/成長促進ビタミンの発見」

(安達洋祐)

医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

今月のニャンコ

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。第１６号です。今回も日本医学教育学会発表された学生さん達より記事を頂きました。優秀演題賞を受賞しております。

お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。　記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター　編集担当：柏木　孝仁
〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765
https://csme.kurume-u.ac.jp　E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp